

2023 年度

# 事業報告書

社会福祉法人 地域で一緒に暮らそう会

## 1 2023年度の事業経過と総括

新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に感染症法上の5類に移行され、緊急事態宣言による行動制限や入院勧告などの対策は行われなくなり、また、マスクの着用などの感染対策も基本的に個人の判断に委ねられましたが、利用者や職員の安全を最優先に徹底した感染予防対策を行いました。

感染予防のための備蓄、職員の感染症に対する意識・行動制限の共有化等を図りました。

しかしながら、グループホームワルツで、初秋に職員、利用者が罹患し、8日間にわたり事業所を閉鎖する事態となりました。また、冬期間を通して、インフルエンザなどによる体調不良者が出現し、キャンセルが増え、事業所運営に影響が生じました。

職員の労働環境の向上と福利厚生の実施については、これまでも意を配してきましたが、半日休暇制度を導入するとともに、育児休暇制度を拡充してさらなる充実を図りました。

施設等については、はぐ及びきらきはうすの屋根塗装を実施したほか、快適な住環境の整備として、グループホームワルツとかのんに石油暖房機を新たに設置しました。また、経年劣化等による修繕等を行いました。

車両については、日本財団から助成を受けて、1台を入れ替えたほか、国からの全額補助により、置き去り防止安全装置を11台に設置しました。

また、12月にミャンマーからの特定技能外国人3名を雇用しました。

法人の2023年度法人目標である「感染症対策の強化に係る取組及び業務継続計画の見直し」と「職員確保・育成・定着と業務の効率化」を達成するための取組等を行いました。

### 「感染症対策の強化に係る取組」

感染症対策の強化に関する取り組みについては、2024年4月1日から義務化に向けて、事業所における感染症の予防及び蔓延防止のための指針を整備するなど、感染対策委員会の設置に向けた準備を行いました。

また、従業者に対して感染症の予防及び蔓延防止のための研修や業務継続計画（BCP）に基づいた研修を実施しました。

さらに、集中抗原検査期間として、5月と8月、12月には週2回（4週間）、勤務前に抗原検査を実施し、感染状況の把握に努めました。また、感染対策キット（マスク・ゴム手袋等）の供給情報の把握に努め昨年度に続き、法人本部が中心となり感染対策資材の補充・供給・備蓄を継続的に行いました。

### 「職員確保・育成・定着と業務の効率化」

福祉サービスの継続と発展のため、働き甲斐や魅力のある職場作りを目指すため、労働関係法令の遵守と適切な労務管理により、職員の安全と健康を確保し、快適な環境づくりを推進しました。また、ライフステージの変化に配慮した、働きやすい職場環境づくりも実施しました。

- ① WEB上の採用ツール（求人ポータルサイト等）を積極的活用し、職員の新たな雇用を図りました。
- ② 適切な労務管理のための研修等へ該当する職員を参加させました。

- ③ 資格取得等キャリアアップを含めた奨学金制度をホームページ等で周知したほか、資格取得試験に対する特別休暇制度の導入について検討しました。
- ④ 就職準備金について、ホームページに掲載し周知しました。
- ⑤ 仕事への誇りを持たせるための研修については、サポーターズカレッジを導入し全職員に対し課題（本部指示課題+自己選定課題）のレポート提出を求めました。
- ⑥ ICTの更なる活用（電子帳簿保存法の対応を含む）について、検討しました。
- ⑦ 職場環境の課題等を明確にするために、コミュニケーションの場を定期的に設定しました。
- ⑧ 効果的な広報戦略の推進として、経営状況の閲覧・公表を確実にを行い、透明性の高い法人経営の確立を目指しました。さらに、福祉の職場に対するイメージアップを図るとともに、法人が行う社会福祉事業、地域における公益的取組等、様々な事業内容について情報発信しました。そのほか、地域貢献としての地域における活動をホームページで発信しました。

次に各事業所について総括します。（収支については計算書の参照ページを入れてあります。）

### 「社会福祉拠点」

◎**居宅介護事業**は、登録者数、重度訪問7人、居宅介護16人、行動援護8人、延利用者数は、前年度比62人増の3,906人となりました。新型コロナウイルス感染症の影響は、夏に感染が広まりましたが、事業所を閉鎖することはありませんでした。

#### 主な事業の反省

- ・利用者ニーズをもとに個別支援計画（基本年2回）を立て、日々のミーティングや支援会議で意見交換を行い、支援内容の振り返りを行いました。利用者の身体の状況や状態の変化と環境、家庭の変化等に関する情報の共有を周知徹底し、人格を尊重し常に利用者の立場に立ち、安全第一にサービスを提供することができました。利用者だけでなく、家庭の事情等で緊急なサービスやニーズ（必要性や要望）等にも幅広く対応することができました。
- ・新たな職員に対しては、基本情報や支援方法の伝達と研修を行い、育成に努めました。また、必要に応じて個別に時間を設け、振り返りを行い、常に相談できる環境を整える事ができました。

#### 収 支（計算書 P38）

**事業収益**は、前年度比3,088千円増の67,421千円となりました。新型コロナウイルス感染症による事業所の閉鎖が無く、居宅新規利用者が1名あったことから増となりました。

サービス事業では、身体介助2,011千円減（人員配置によるサービスの変更）、行動援護2,245千円増（利用者1名サービスの変更とコロナ対策によるキャンセル減）、通院介助625千円増、重度訪問2,229千円増（利用時間の増とコロナ対策によるキャンセル減）となりました。

事業活動支出は、前年度比 857 千円増の 38,242 千円となりました。主な要因は、職員給与 167 千円増（手当増）、非常勤職員給与 650 千円増（手当増、シフト増）、法定福利費 205 千円増、事業費・保健衛生費 475 千円減（在庫使用）、車両費 172 千円増（車両修理）、その他 138 千円増でした。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 2,825,972 円増の 30,059,258 円となりました。

◎共同生活援助（グループホーム）事業は、定員 14 人に対し、延利用者人数は、前年度比 344 人増の 3,526 人となりました。更に、空床型短期入所の利用状況を加えると延利用者数 3,579 人となりました。

また、新型コロナウイルス感染症に伴う事業所閉鎖が、1 回（ワルツ 8 日間）あり、怪我による利用減（21 日間）、感染対策による利用キャンセル（16 回）がありました。また、保護者等の体調不良による緊急対応が 23 日間ありました。稼働率は前年度比 7.4%増の 83.7%となりました。

2 カ月に 1 回（偶数月）各グループホーム会議、2 カ月に 1 回（奇数月）全体会議を開催し、スタッフ同士の連携（コミュニケーション）を図る事ができました。また、GH全体で 7 月に焼肉店へ行き、8 月には敷地内で「流しそうめん」をして 3 棟合同での食事を楽しむことができました。

#### 収 支（計算書 P38）

事業収益は、前年度比 656 千円減の 36,845 千円となりました。主な要因は、新型コロナウイルス感染症に伴う事業所の閉鎖（8 日間）が 1 回あり、GH利用者 344 日増と GH体験利用者 31 日増となり 4,192 千円増、特定費用収益（実費負担金を仮受金へ科目変更し個人の実費金額を明確にした為）4,707 千円減、補助金事業収益 161 千円減、その他 20 千円増となりました。

事業活動支出は、前年度比 1,448 千円減の 29,513 千円となりました。主な要因は、人件費 3,849 千円増（利用増）、事業費（実費負担金を預り金へ科目変更し個人の実費金額を明確にした為）4,783 千円減、修繕費 655 千円減、福利厚生費 175 千円増、その他 34 千円減となりました。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 62,632 円増の 7,891,002 円となりました。

◎短期入所事業は、延利用者数が前年度対比 11 人増の 53 人となりました。

#### 収 支（計算書 P38）

事業収益は、前年度比 163 千円増の 556 千円となりました。

事業活動支出は、前年度比 55 千円減の 112 千円となりました。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 218,836 円増の 443,873 円となりました。

◎移動支援事業は、延利用者数が 393 人となりました。音更町（6 人）、土幌町（1 人）の 2 市町の受託事業となりました。

#### 収 支（計算書 P38）

事業収益は、前年度比 574 千円増の 2,359 千円となりました。

事業活動支出は、前年度比 17 千円増の 1,598 千円となりました。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 574,990 円増の 779,774 円となりました。

◎放課後等デイサービスは、延べ利用人数は、118 人減の 1,569 人となり、稼働率 63%（前年度 10%減）となりました。本年度は 5 人の契約満了と 4 人の新規利用児がおりました。新型コロナウイルス感染症

による事業所の閉鎖はありませんでしたが、インフルや体調不良、感染対策等で利用を控える等キャンセルが増え、延べ利用人数は減となりました。

### 収 支 (計算書 P38)

事業収益は、前年度比 3,007 千円減の 15,215 千円となりました。主な要因として、体調不良等の利用キャンセル (313 日) があり 2,918 千円減、補助金事業収益 84 千円減、その他 5 千円減となりました。

事業活動支出は、前年度比 1,742 千円減の 21,435 千円となりました。主な要因は、職員給与人員配置 1 名減 (異動) による人件費 2,620 千円減、非常勤職員給与 (2 名採用) 1,558 千円増、修繕費 (機械浴点検) 337 千円増、保健衛生費 215 千円減、減価償却費 474 千円減、その他経費 328 千円減となりました。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 909,287 円減の△5,665,274 円となりました。

### 「えがお拠点」

◎生活介護事業は、登録利用者 22 人、延べ利用者数 40 人減の 4,575 人、稼働率は 69% (前年度 2%減) となりました。主な要因は、新型コロナウイルス感染症による事業所閉鎖はありませんでしたが、GH (ワルツ) の閉鎖による利用減 (15 回) と、利用者の入院 (1 名 36 日間)、利用日の変更 (2 名)、体調不良、その他の利用キャンセルがあり、延べ利用者数が伸びませんでした。

### 主な事業の反省

- ・年 2 回、利用者ニーズをもとに個別支援計画を立て、月に 1 回 (午後から 3 時間) 会議を行い、グループに分かれて支援内容について話し合いを行い、利用者本人の身体的状況や、メンタルな部分の把握に努めることができました。
- ・新たな職員に対しては、指導する職員を固定し、支援手順書をもとに伝達を行い、支援後の振り返りを半年間行い、利用者の重度化に対応できる職員育成を図りました。また、必要に応じて個別に時間を設け、常に相談できる環境を整える事ができました。
- ・感染対策を万全にして、地域のボランティアによる「そば打ち体験会」や 2 カ月に 1 回、町総合福祉センターで開催される「コミサポ」に参加し、利用者地域の方々と交流することができました。活動等で作った作品の販売会には 3 回参加することができ、積極的に地域社会との接点を増やすことができました。
- ・活動内容の見直しを行い、グループホームで使用した洗濯物をコインランドリーに運んだり、特定技能外国人による英会話授業などの活動を取り入れました。
- ・日々の活動によるポイント付与制度 (1 日最大 40 ポイント) により貯まったポイントで、ジュース類を購入したり、商品券と交換して DVD を買ったり、家族へのプレゼントに使用しました。

ポイント交換結果

ジュース類・・・538 本 (延 538 人利用)

商品券(¥1000)・・・71 枚 (延 20 人利用)

- ・医療的ケア対象利用者の導尿及び痰吸引等を看護師により適切に支援するとともに、日々のバイタ

ル測定を始め、体調の変化等の確認作業を行いました。

## 収 支 (計算書 P41)

**事業収益**は、前年度比 319 千円増の 69,783 千円となりなした。主な要因として、新型コロナウイルス感染症による事業所閉鎖はありませんでしたが、入院や利用日の変更、体調不良などによる利用キャンセル (313 回)、前年度比利用増 (273 回) (230 千円減)、補助金収入 (465 千円増)、その他 84 千円増となっています。

**事業活動支出**は、人件費前年度比 1,515 千円増の 54,225 千円で、主な要因は、職員給与等では 593 千円増 (新規採用名 : 3 名、外国人採用 3 名 : 12 月、退職者 3 名)、非常勤職員給与では、922 千円増 (シフト増) となりました。また、事業費は、前年度比 1,764 千円増の 10,946 千円で、主な要因は、物価の高騰などにより 617 千円増、教育指導費 905 千円増 (大友福祉財団助成品等)、修繕費 98 千円増、車両費 144 千円増 (車両修理等) となりました。事務費等では、前年度比 1,219 千円増の 5,153 千円で、外国人採用に伴う紹介料とサポート料 678 千円増、福利厚生費 452 千円増、その他 89 千円増となりました。

**事業活動における経常増減差額**は、前年度比 2,905,503 円減の△4,846,072 円となりました。

◎**就労継続支援 B 型事業**は、登録利用者 2 人延べ利用者数 298 人、稼働率 11%となり、前年度比 1%増となりました。

稼働率は 11%と低い値ですが、利用者とのコミュニケーションを大切に、利用者の身体状況及びメンタルな部分の把握に努め、配慮しながら支援を行いました。更に、利用者のニーズをもとに個別支援計画を作成し、6 カ月で達成できる短期目標を中心に、計画に沿って支援の統一を図りました。

利用者については、安全に作業を行えるよう、作業方法や工程の見直しを行いました。また、規則正しい生活習慣が確立できるよう支援しました。

商品の販売促進に関しては、製品取引先が 17 企業と昨年と変わらずの登録数でしたが取引先が変わった事により、受注数が減り、製造収益を維持することが出来ませんでした。

## 収 支 (計算書 P41)

**事業収益**は、製造製品事業収益 (商品販売) は、前年度比 335 千円減の 2,067 千円となりました。また、訓練等給付費は前年度比 173 千円増の 2,063 千円、補助金事業収益等は前年度比 132 千円減の 158 千円となりました。

**事業支出**に関しては、人件費で前年度比 96 千円減の 2,368 千円、事業費では 9 千円減の 117 千円、事務費では 22 千円増 (福利厚生費増) の 390 千円、減価償却費等 15 千円増の 792 千円となりました。

製造原価では、前年度比 184 千円増の 7,632 千円となっています。主な内訳は、材料仕入 356 千円増、労務費 581 千円増 (非常勤職員の配置等 545 千円増、利用者工賃 36 千円増)、当期経費 74 千円増 (消耗品費 61 千円増、その他経費 13 千円増)、在庫棚卸 828 千円減となりました。

**事業活動における経常増減差額**は、前年度比 490,139 円減の、△7,066,651 円となりました。

◎**児童発達・放課後等デイサービス (重症心身障害児) 事業**については、医療ケア対象児 (登録数 8 人) 言語療育対象児 (登録数 12 人)、延べ利用人数 (医療ケア 523 人、言語 153 人)、全体の稼働率は 52%

で、言語療育対象児を除くと稼働率 40%（前年度比 11.8%減）でした。医療ケア対象児に関しては、1名の退所利用者がいました。また、言語療育対象児に関しては、発音、吃音の改善による終了児童は7名でした。今年度も、「音更町障害福祉サービス事業所における医療的介護対象者受入促進事業補助金（514万円）」の事業収入がありましたが、延べ利用人数が伸びず収益を上げる事が出来ませんでした。

### 収 支（計算書 P41）

事業収益は、前年度比 5,299 千円減の 18,949 千円となりました。主な要因は、退所利用児 1 名と感染対策等による利用キャンセル 19 回、体調不良等 69 回、その他家庭の事情等のキャンセル 84 回あり、収益は減となりました。

また補助金事業収益として、音更町障害福祉サービス事業所における医療的介護対象者受入促進事業補助金等 514 万円（32 千円増）となりました。

事業活動支出は、前年度比 3,516 千円減の 21,096 千円となり主な要因は、人件費が前年度比 3,201 千円減（職員 1 名退職）、事業費前年度比 27 千円減、事務費前年度比 28 千円増、減価償却費他前年度比 260 千円減となっています。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 1,859,100 円減の△2,124,511 円となりました。

◎相談支援事業は、登録利用者数 19 人、延べ利用者数が前年度比 21 人減の 61 人となりました。今年度は 1 名の退所利用者がいました。

### 収 支（計算書 P41）

事業収益は、前年度比 217 千円減の 877 千円となりました。

事業支出は、前年度比 764 千円減の 1,340 千円となりました。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 542,358 円増の△468,116 円となりました。

## 「ていくたく拠点」

利用者や職員の安全を最優先に感染予防対策を行いながら、これまで、コロナ禍により中止又は内容を変更して実施していた【いつでも相談】【ていくたく参観日】【親子レク・支援】などの行事について、コロナ禍前の内容にほぼ戻して実施することができました。

保護者との相談や情報共有等のコミュニケーションツールとして Line（ライン）を使用することにより、意思疎通がより円滑にできました。アセスメントは、感染症の予防対策を実施しながら、年間を通して、来所による面談を行うことができ、保護者からより細かな要望を聞き、より個々の児童に対応した支援ができました。

さらに、感染症の発生及び蔓延の防止等に関する取組の徹底を求める観点から「感染症対策の強化に係る取組」の体制の整備を行いながら、事業運営をすることができました。

今年度、体調不良等におけるキャンセルが児童発達支援では、年間利用予定日数（延べ）1,536 日に対し実利用日数が 1,115 日（72.6%）となり、前年度より 2.7 ポイント減の約 27.4%のキャンセル率となっています。また、放課後等デイサービスでは、年間利用予定日数（延べ）1,819 日に対し実利用日数 1,471 日（約 80.9%）となり、前年度より 2.5 ポイント増の約 19.1%のキャンセル率となっています。キャンセルの主な要因は、新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザの拡大が影響しました。

## 収 支 (計算書 P40)

事業収益は、前年度比 1,376 千円増の 52,170 千円となりました。

事業支出は、前年度比 2,879 千円減の 39,438 千円となりました。主な要因は、人件費は前年度比 3,356 千円減（退職者 1 名）、事業費は前年度比 444 千円減（保健衛生費、消耗品費：在庫を使用）、事務費は前年度比 924 千円増（清掃委託費 1,039 千円増、その他 115 千円減）となりました。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 3,811,352 円増の 12,895,456 円となりました。

ただし、福祉拠点（法人本部）で計上している車両関係費などの管理業務経費 5,000 千円は、振替えていません。

## 「公益事業」

◎帯広市・音更町・幕別町・士幌町から受託している日中一時支援事業は、実利用者 13 人、延利用者数 435 人となりました。各市町の地域生活支援事業の要綱等に則り、適切に支援しました。

## 収 支 (計算書 P43)

事業収入が、前年度比 942 千円減の 2,310 千円となりました。主な要因は、利用者 1 名が体調不良による利用変更がありました。

事業支出は、前年度比 256 千円減の 2,216 千円となりました。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 635,718 円減の 143,487 円となりました。

◎共生型事業は、ふれあい食堂を予定通り 12 回開催することができました。

## 収 支 (計算書 P43)

事業収入が、前年度比 19 千円減の 358 千円（うち寄付金 208 千円）となりました。

事業支出は、前年度比 61 千円増の 535 千円となりました。

事業活動における経常増減差額は、△158,303 円となりました。

◎レスパイトサービス事業は、今年度の利用者はいませんでした。

## 「法 人 本 部」

### 1 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会を次のとおり開催しました。

回数	開催日	参加数	議 案 等
第 1 回	令和 5.5.31	理事 6 名 監事 2 名	・ 議案第 1 号 令和 5 年度第 1 次補正予算について ・ 議案第 2 号 令和 4 年度 事業報告及び決算報告について ・ 議案第 3 号 次期理事及び監事候補の提案について ・ 議案第 4 号 評議員会の開催について ・ 議案第 5 号 職員就業規則の一部改正について ・ 議案第 6 号 会社役員賠償責任保険契約について

第2回	令和5.6.23	理事5名 監事2名	・議案第1号 ・議案第2号 ・報告第1号 ・報告第2号	理事長及び専務理事の改選について 施設の屋根塗装について 第1回評議員会の議決事項の報告について 職務執行状況について
第3回	令和5.11.30	理事6名 監事2名	・議案第1号 ・議案第2号 ・報告第1号	令和5年度第2次補正予算について 電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程の制定について 職務執行状況について
第4回	令和6.3.27	理事6名 監事2名	・議案第1号 ・議案第2号 ・議案第3号 ・議案第4号 ・議案第5号 ・報告第1号	福祉・介護職員等処遇改善臨時特例交付金に関する規程案の制定について 令和5年度第3次補正予算について 職員就業規則の一部改正について 令和6年度事業計画（案）及び予算（案）について 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について 職務執行状況について

(2) 評議員会について、次のとおり開催しました。

回数	開催日	参加数	議案等
第1回	令和5.6.23	評議員7名	・議案第1号 令和4年度事業報告及び決算報告、監査報告について ・議案第2号 役員任期満了による改選について

## 2 2023年度の主な計画の検証について

### ① 評議員会・理事会の開催と運営

上記内容のとおり開催しました。

### ② はぐ・きらきはうすの屋根塗装

令和5年11月に施工しました。

### ③ 各種障がい者福祉助成金への積極的な応募

本年度は、2か所の助成金の交付を受ける事ができました。

1、大友福祉財団（えがお：エアレックスマット他：596,640円）

2、日本財団（きらきはうす（児童）：車両セレナ：2,240,000円）

### ④ 求人对策の継続と定着率向上

#### ・65歳定年制の検討

65歳定年に就業規則を改定しました。

#### ・処遇改善手当配分方法の見直し

当初の計画通り行いました。

- ・実習性の受入体制の充実

大谷短大保育士コース（3名）の生徒を受入れました。

- ・各事業所の職員交流研修

新型コロナウイルス感染症の影響を見合わせていた為、実施できませんでした。

- ・インターンシップの積極的受入

積極的な活動ができませんでした。

#### ⑤ 財務管理

- ・会計処理の適正化

顧問税理士による指導・相談のもと、適正に行う事ができました。

- ・会計基準に基づく予算執行と決算処理

適正に行う事ができました。

- ・透明性の確保

電子帳簿保存法の検討を行いました。

#### ⑥ 新規事業に向けた建設準備委員会の設置

人員不足のため、行えませんでした。

#### ⑦ 重度障害者等包括支援事業の開始

10月に指定があり、利用者に関しては入院等があり利用実績はありませんでした。

#### ⑧ 感染対策委員会の設置

準備しました。

#### ⑨ 業務継続計画（BCP）及び各規程の見直し

見直しを行いました。

### 3 収 支（法人全体）（計算書P1）

#### （1）資金収支計算書（資金状況）について

事業収入は、予算額 276,040,601 円に対し実績額 277,901,155 円（執行率 100.7%）で、前年度比 98.2% となりました。

事業活動支出は、予算額 260,231,694 円に対し実績額 256,715,704 円（執行率 98.6%）で、前年度比 100.3% となりました。執行残は 3,515,990 円で、主な内容は、人件費 900 千円、給食費 141 千円、水道光熱費 551 千円、燃料費 195 千円、保険料 139 千円、保健衛生費 331 千円、消耗品費 406 千円、車両費 592 千円、その他経費 260 千円でした。適切な予算配分及び補正予算を組み、財産管理を行いました。

#### （2）施設整備等における収支について

施設整備等収入は、予算額 4,706,640 円に対し実績額 4,110,000 円執行率 87.3% となりました。

内訳は、放課後等デイサービスきらきはうすに車両（日本財団 2,240,000 円）、子ども置去り防止安全装置 11 台分（北海道 1,870,000 円）でした。

施設整備等支出は、予算額 18,745,901 円に対し実績額 19,055,522 円執行率 101.7% となりました。

主な内容は、福祉医療機構等借入返済（8,292,000 円）、きらきはうす屋根補修工事（682,000 円）、はぐ屋根補修工事（990,000 円）、子ども置去り防止安全装置 11 台分（1,870,000 円）、セレナ車

両代 (3,444,721 円)、ていくたくパソコン 1 台 (166,316 円)、えがおパソコン 1 台 (166,315 円)、ワルツ灯油ストーブ (203,500 円)、かのおん灯油ストーブ (198,000 円)、音きらストーブ (118,580 円)、セレナリサイクル料 (13,270 円)、リース債務返済支出 (2,910,820 円) でした。

法人全体では、当期資金収支差額が 5,743,343 円、前期までを含めた翌期への繰越資金残高は、106,370,111 円となりました。

また、社会福祉法人の主目的は、利益獲得ではありませんが、安定的・継続的に福祉サービスを提供するためには、一定の収益性を確保することが重要であります。そのための基本的な指標の経常増減差額率（経常増減差額÷サービス活動収益計×100）が 1.64% となり、マイナスではないが厳しい運営となりました。

### （3）事業活動計算書（利益状況）について（計算書 P23）

当期活動増減差額は、法人全体で前年度の 7,880,097 円より 3,421,384 円減の 4,458,713 円となりました。

サービス活動収益は、前年度比 4,941,237 円減の 271,136,467 円となりました。主な要因は、居宅介護事業 3,088 千円増、前年度比 104.8%（コロナ等によるキャンセル減、新規利用者 1 名）、放課後等デイサービス 3,007 千円減、前年度比 83.5%（体調不良等によるキャンセル増）、移動支援 574 千円増、前年度比 132.2%（人員配置によるサービスの変更等）、日中一時支援事業 942 千円減、前年度比 71%（利用者 1 名、体調不良等による利用日数減）、生活介護事業 319 千円増、前年度比 100.5%、共同生活援助 656 千円減、前年度比 98.2%、就労 B 型 294 千円減、前年度比 93.6%、重症心身児童発達・放デイ 5,299 千円減、前年度比 78.1%（退所 1 名、体調不良等のキャンセル増）、相談支援 217 千円減、前年度比 80.1%、ていくたく 1,376 千円増、前年度比 102.7%、その他 117 千円増となりました。

サービス活動費用は、前年度比 1,885,347 円減の 271,519,981 円となりました。主な要因は、人件費 1,413 千円増（採用 12 名、退職者 10 名）、事業費 4,619 千円減（GH 経費科目変更、保健衛生費減）、事務費 2,642 千円増（委託費外国人サポート料、福利厚生費、研修研究費、清掃委託費の増）、就労支援事業費 184 千円増、減価償却費 1,891 千円減、その他 386 千円増となりました。

また、法人全体としての人件費比率（人件費÷サービス活動収益計×100）が 77.2%（前年度 75.3%）となり、毎年人件費の割合が増える傾向にあり、収益に影響しています。円滑に福祉サービスを提供する上で、適切な人員配置と適切な報酬水準の確保は不可欠であり、安定的な経営のためには固定費としての性格が強い人件費比率を、一定水準に抑える必要がありますが、毎年定時昇給による増額分と、2 名の雇用増などにより、人件費比率を下げる事が出来ませんでした。さらに、今年度はコロナ禍による影響は前年度よりはありませんでした。利用者の入院や体調不良、インフルによるキャンセルがあり、人件費率が UP した要因の一つとなりました。

新年度においては、これまで以上に、利用者人数に対する職員配置が適切か等、稼働率も検証しながら人件費比率の確認を行います。

### 《 登記・定款変更事項 》

2023.06.30 社会福祉法人変更登記 資産総額の変更（令和 5 年 3 月 31 日現在）

### 《 規則・規程変更及び制定 》

2023.05.31 職員就業規則の改定

2024. 03. 27 福祉・介護職員等処遇改善臨時特例交付金に関する規程の制定  
職員就業規則の改定  
育児・介護休業等に関する規程の改定

◀ 防災訓練等 ▶

下記の通り行いました。

避難訓練・・・	夜間避難訓練（グループホーム）	2回
	日中避難訓練（グループホーム）	1回
	日中避難訓練（きらきら全体）	1回
	日中避難訓練（えがお）	2回
	日中避難訓練（ていくたく）放デイ5回	児童発達5回
救急救命講習	法人全体（えがお）	1回

◀ 2023年度職員採用 ▶

区分	採用年月日	職種	処遇	採用理由
採用	4月1日	部長	嘱託職員	増員
採用	5月1日	介護福祉士	職員	増員
採用	5月1日	介護福祉士	パート	増員
採用	5月8日	児童指導員	パート	増員
採用	6月12日	栄養士	職員	増員
採用	7月17日	世話人	職員	増員
採用	8月2日	保育士	パート	増員
採用	12月4日	特定技能外国人	職員	増員
採用	12月4日	特定技能外国人	職員	増員
採用	12月4日	特定技能外国人	職員	増員
採用	2月12日	介護福祉士	職員	増員
採用	3月7日	指導員	職員	増員

◀ 2023年度退職職員 ▶

区分	退職月日	職種	処遇	理由
退職	4月28日	保育士	職員	自己都合
退職	8月31日	介護福祉士	パート	自己都合
退職	9月30日	特定技能外国人	職員	自己都合
退職	9月30日	介護福祉士	職員	自己都合
退職	9月30日	調理師	職員	自己都合
退職	10月19日	保育士	職員	自己都合

退職	2月27日	介護福祉士	職員	自己都合
退職	3月19日	介護福祉士	パート	自己都合
退職	3月31日	ヘルパー	嘱託職員	自己都合
退職	3月31日	指導員	パート	自己都合

#### 《 職員への福利厚生の実況 》

職員の生活を大切にしながら満足度高く効率的に働いてもらうため、有給休暇(取得率フルタイム職員67%・フルタイム外職員60%)、育児休暇(4人)、介護休暇(3人)及び傷病休業(1人)について積極的に勤務調整を図りました。

#### 《 会計事務所による外部監査を毎月及び決算期に受ける 》

関会計事務所と税理士委嘱契約を交わしています。

#### 《 2023年度 会議開催の状況 》

開催日	会議名	主な議題	職員	理事
2023.4.10	放デイ月例	・春休みの振返り・ケース会議・新年度について	4	
2023.4.10	えがお主任会議	・新年度の体制について・車両について	4	
2023.4.18	かのん会議	・ケース会議・感染対策について	4	1
2023.4.19	ワルツ会議	・ケース会議・感染対策について	5	1
2023.4.20	部門調整会議	・感染対策について・人事交流について・各部署より	7	1
2023.4.21	えがお会議	・感染対策について・新年度について・ケース会議	18	2
2023.4.25	えがお主任会議	・全体会議について・事務時間について・居宅について	6	
2023.4.26	ぼこ会議	・感染予防について・ケース会議	5	1
2023.5.9	主任会議	・感染対策について・新人スタッフについて	5	
2023.5.10	ぼこ会議	・ケース会議	5	1
2023.5.10	G H全体会議	・感染対策について・G H合同食事会について・懇親会について・各G Hより	9	1
2023.5.18	放デイ月例	・キャリアパスシートについて・6月の月案について	4	
2023.5.19	えがお会議	・感染対策について・有給について・グループワーク・ケース会議	16	1
2023.6.12	ぼこ会議	・ケース会議・食事について	3	1
2023.6.12	放デイ月例	・夏祭りについて・ケース会議3名	4	
2023.6.13	かのん会議	・ケース会議・感染対策について	4	
2023.6.13	ワルツ会議	・ケース会議		
2023.6.14	本部会議	・理事会について・今後の体制について	3	2

2023. 6. 14	ワルツ会議	・ケース会議・感染対策について	5	
2023. 6. 14	キッチン会議	・今後の体制について	4	
2023. 6. 16	えがお全体会議	・安全運転講習・夜勤について・事故報告・ケース会議	21	1
2023. 6. 27	主任会議	・服薬について・土曜日の活動について・ケース会議	4	
2023. 7. 12	GH全体会議	・食事について・イベントについて・ケース会議	13	1
2023. 7. 19	キッチン会議	・試食会・給食形態・指示書について	4	
2023. 7. 21	えがお会議	・イベントについて・ケース会議	13	1
2023. 7. 21	放デイ月例	・夏祭りについて・夏休みについて	5	
2023. 7. 25	主任会議	・活動について・感染対策について・次亜塩素について	3	
2023. 8. 8	かのん会議	・お楽しみ会について・ケース会議	7	1
2023. 8. 9	ワルツ会議	・ケース会議	5	1
2023. 8. 15	キッチン会議	・下処理について・ごはんについて	4	
2023. 8. 16	本部会議	・GHについて・申請書類について・外国人について	4	2
2023. 8. 18	えがお会議	・夏祭りについて・ケース会議	17	1
2023. 8. 23	ぼこ会費	・食中毒について・ケース会議	4	1
2023. 8. 24	部門調整会議	・各部署から報告・子ども置き去り防止ブザー取付日程について	6	1
2023. 9. 13	GH全体会議	・感染症の対応について・ケース会議	11	1
2023. 9. 13	キッチン会議	・行事食について・コロナ時の対応・夏祭りの反省	3	
2023. 9. 21	えがお主任会議	・スタッフ間の連携、気づきについて	5	
2023. 9. 25	きらきら月例	・ケース会議	5	
2023. 10. 10	かのん会議	・ケース会議	3	1
2023. 10. 11	本部会議	・働き方について・進捗状況	2	2
2023. 10. 11	ワルツ会議	・ケース会議	6	1
2023. 10. 16	きらきら月例	・ケース会議・活動について	4	
2023. 10. 18	ぼこ会議	・ケース会議	6	
2023. 10. 18	キッチン会議	・行事食について・試作・クリスマス会について	3	
2023. 10. 19	部門調整会議	・各部署から報告・感染対策について	6	1
2023. 10. 20	えがお会議	・公用車について・感染対策について・ケース会議	17	1
2023. 11. 13	放デイ月例	・クリスマス会について・冬休みの動きについて・研修報告	5	
2023. 11. 15	GH会議	・暖房について・食材発注について・感染対策	11	1
2023. 11. 15	キッチン会議	・クリスマス会について・メニューについて	3	
2023. 11. 17	全体会議	・感染対策について・職員の休憩、活動内容について・クリスマス会について・	14	1
2023. 11. 22	本部会議	・外国人について・職員の働き方について・新年度について	4	2

2023. 12. 7	主任会議	・外国人について・ケース会議	5	
2023. 12. 11	放デイ月例	・ケース会議・冬休みのイベントについて	5	
2023. 12. 13	キッチン会議	・クリスマス会反省・試作について	3	
2023. 12. 15	えがお会議	・ケース会議・感染対策について	20	1
2023. 12. 22	ワルツ会議	・ケース会議・感染症備品について	7	1
2023. 12. 21	えがお主任会議	・外国人について・担当について・掃除について		
2024. 1. 17	GH会議	・感染対策について・食事について・ケース会議	12	1
2024. 1. 17	キッチン会議	・献立について・行事食について	3	
2024. 1. 19	えがお会議	・新年度の体制について・ケース会議・計画書について	23	1
2024. 1. 22	放デイ月例	・冬休み期間の振返・ケース会議・2月の月案について	5	
2024. 1. 25	本部会議	・4月からの体制について・予算と報酬改定について	3	2
2024. 2. 9	放デイ月例	・ケース会議	5	
2024. 2. 13	かのかん会議	・ケース会議	5	1
2024. 2. 14	ワルツ会議	・ケース会議	6	1
2024. 2. 16	えがお会議	・4月からの体制について・ケース会議	19	1
2024. 2. 20	キッチン会議	・メニューについて・利用者のアレルギーの確認	2	
2024. 3. 8	放デイ月例	・新年度の配置について	5	
2024. 3. 13	GH全体会議	・各GHより・ケース会議	13	
2024. 3. 15	えがお会議	・新年度からの活動について・ケース会議	17	
2024. 3. 23	キッチン会議	・新メニューについて・試作	3	

《 法人共生型事業 》

月日	内容	場所	参加人数
2023. 4 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	51 人
2023. 5 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	48 人
2023. 6 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	45 人
2023. 7 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	37 人
2023. 8 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	47 人
2023. 9 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	49 人
2023. 10 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	36 人
2023. 11 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	48 人
2023. 12 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	54 人
2024. 1 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	48 人
2024. 2 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	50 人
2024. 3 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	56 人

≪ 役員・職員配置 ≫

(1) 本部 理事 6 名 評議員 7 名 監事 2 名

(2) 事業

①職種別職員数

職種	正職員		嘱託職員		再任用職員		パート職員		合計	
	年度初	年度末	年度初	年度末	年度初	年度末	年度初	年度末	年度初	年度末
介護福祉士	16	17	1	1	2	2	2	2	21	22
社会福祉士	1	1							1	1
ヘルパー 1 級					1	1			1	1
ヘルパー 2 級	1	1	1	1	1	1	2	2	5	5
保育士	7	4						1	7	5
看護師、言語聴覚士 作業療法士 教員資格保有者	3	2					2	2	5	4
管理栄養士・栄養士	0	1							0	1
世話人、夜間支援員 調理員、運転手、指導員	3	3	7	7			10	10	20	20
事務員	2	3					2	3	4	6
特定技能外国人	2	4							2	4
合計	35	36	9	9	4	4	18	20	66	69

≪ 職員交流 ≫

日付	内容	場所	人数
2023 年 4 月	歓迎会 (本部・放デイ)	うさぎ	14 人
2023 年 5 月	歓迎会 (ていくたく)	だいじゅ園	12 人
2023 年 6 月	食事会 (GH)	蔵戸	13 人
2023 年 6 月	食事会 (えがお)	もみじ乃	28 人
2023 年 11 月	食事会 (GH)	ル・ボルドー	15 人
2023 年 12 月	食事会 (放デイ)	あぶらびれ	7 人
2024 年 2 月	新年会 (えがお・本部)	北海道ホテル	32 人
2024 年 2 月	食事会 (ていくたく)	北海道ホテル	10 人

◀ 2023 年度事故報告と研修一覧 ▶

別紙資料①

◀ 2023 年度の利用状況（2024. 3. 31 現在） ▶

① 18 歳以上

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	利用者合計
人数	9 人	10 人	3 人	1 人	2 人	0 人	25 人

② 18 歳未満

放課後等デイサービス（定員 15 名）・児童発達支援（定員 5 名）

	放課後デイ	個別（デイ）	個別（児 発）	医療（デイ）	医療（児発）	利用者合計
人数	17 人	8 人	4 人	7 人	1 人	37 人

③ 18 歳未満（第 2 子ども発達支援センター）

放課後等デイサービス（定員 20 名）・児童発達支援（定員 18 名）

	放課後デイ	発達支援	利用者合計
人数	31 人	23 人	54 人

合計 116 人